

発行

福井県大野市天神町1番1号
大野市役所
電話(代) 6-1111
郵便番号 912

印刷 松浦印刷所



4月の人口の動き

出生	男 16	女 21	計 37
死亡	♫ 21	♫ 22	♫ 43
転入	♫ 100	♫ 109	♫ 209
転出	♫ 109	♫ 130	♫ 239
世帯数	10,313(前月+21)		
人口	42,636(前月-36)		
男	20,573	女	22,063



さわやかに銀輪は走る

親子そろって体力づくり

「健康な体力づくりと自転車の正しい乗り方を身につけよう」と、市教委、体協の共催で風薫る5月16日、市民サイクリング大会が開かれました。

小学校4年生以上という呼びかけで、9歳の少年から63歳のおじいさんまで総勢約50人が参加する盛況でした。

午前9時、「がんばってー」の声援を合図に市役所前をスタート。澄んだ空気を胸いっぱい吸い込んで、若葉そよぐ奥

越路をベタルも軽くさっそうと愛車をとばします。

西部バイパスをグルッと回って上庄小学校で一休みし、蔵生小学校では昼食後ソフトボールに興じるなどレクリエーションを楽しみました。

帰りはゴールの市民会館まで全長32.5kmのコースを全員が完走して、午後2時過ぎ解散しました。この大会に毎年参加している宮内健さん(63歳、日吉町)

は、「新緑の中を疾走するのはそう快な気分だし、健康づくりにも適している。これからも毎年参加します」と息をはずませていました。また最年少の宮西晃君(有終南小4年)はお父さんと一緒に初参加しましたが、「昼食後のソフトボールなど楽しい一日だった。この次はお友達をたくさん誘って参加します」と目を輝かせていました。(写真は西部バイパスを軽快に走る一行)

集録の動き各地でさかん

郷土の歴史を後世へ

先人が残してくれた貴重な史料や、お年寄りの口から口へと伝えられてきた民話・民謡などが、年とともに失われていくのは郷土の損失。せめてわれわれの手で今のうちに保存対策を考え、後世に伝えていこう——と最近各地で郷土史編さんへの動きが高まっています。

そこで、各地の実状のいくつかを紹介しましょう。

文書解説に意欲燃やす編集委員
村政時代の新事実も発見

小山郷土誌

小山地区ではいま「小山郷土誌」の編集が進められています。

昭和43年ごろ、地区民の間で「地域の文化遺産をまとめよう」との話が出て、安川金弥さん(68歳下舌)らの提唱がきっかけとなって地区区長会の賛成を得、

編集事業に取りかかりました。

現在、編集を担当しているのは安川さんと斉藤庄吉さん(74歳、上舌)、松田芳栄さん(69歳、千歳)田中栄さん(71歳新庄)の4人です。安川さんが沿革と総説を、斉藤さんが風俗・宗教・産業、松田さんが人物・教育などを受け持ちこれに田中さんがいろいろなかたちで協力しています。郷土誌づくりに取り組んだのは、①このままでは民家にある古文書類がいつか無くなってしまふ ②若い人は地元の歴史に無関心すぎる ③後世にいろいろなことを伝えていくのは自分た

ちの務め——などと考えたからだといっています。

小山地区は古い社寺を中心に古墳や遺跡も多く、特に一昨年秋、右近次郎遺跡が縄文中期の遺跡としては県下最大の規模で発見され、文化財保護の意識が高まったことも見逃せません。

編集方針は「大野のあゆみ」に倣い、江戸時代以降を重点的に取り上げることにしています

委員長の安川さんは「小山村は難治村といわれ、歴代村長は短命であったことなど面白いことが発見できる」と興味深げ。

また斉藤さんは「古文書の解説にはひと苦労しました」と話していました。



黒谷観音の由来を調べる安川さんら

奥越前の民俗芸能

民謡250種を集大成

3年間の努力が実る

文化の里づくり事業推進委員会(委員長斉藤秀雄文化協会長)では、近く「奥越前の民俗芸能」を出版する準備を進めています。

「奥越前の民俗芸能」は、大野地方に古くから歌い継がれてきた「わらべ歌」「作業歌」や民謡の踊り方などを網らしたもので、すでに出版されている「大野の民俗芸能」をさらに広く深く調査して250種を集大成しました。

本書の特徴は、民俗芸能のみに焦点をしばり、専ら古老の生の声とお年寄りが舞う素朴な身振りをそのまま再現したところにあり、歴史ブームの中では非常にユニークな試みになっています。

当市は昭和46年8月、県教委の提唱で文化の里づくり事業推進委員会を発足さ

せました。

民俗芸能はその歴史上不明な点も多いが、永い歴史の中で素朴な人情によってはぐくまれて

きたものだけに深い味わいと郷愁が深い私たちに限りない愛着を覚えさせます。このような文化遺産も、古老が少なくなるとつれて忘れ去られていきます。「後世に引き継ぐには、いまのうちに収録しておかないと…」という観点から始められました。

調査員17人が3年間、カメラ、テープレコーダーを持って古老宅を訪ね回ったり、県外まで出向いて「これ以上落ちこぼれがない」というところまで集録しました。

編集委員らは「大野地方特有のものと他地方から移入されたものとの振り分けやら、古老の歌う文句の聞きとりと、その採譜作業には苦労した」と話していました。



鬼谷川の砂防工記念碑
を調査する編集委員

人情風俗など郷土色豊かなものを柱として、興味深いものにまとめています。例えば、「美しい山と川の上庄」で始まり、「時の流れと上庄」から「百姓生活のうつりかわり」「若い衆の娯楽」「青年学校のあゆみ」などといった具合です。

齊藤健太郎さん(61歳、今井)は「編集長としては3代目。初代の竹内さんは病死され、2代目の山田諭さんは手首の痛みの悪化で辞退されるなどハプニングが続出…」と苦笑しながら「史実に基づかないものの真偽を見分けるため、何回も委員で討議を重ね、さらに専門家の意見を求めるなど資料採用には細かい神経を使った。とにかく上庄のよさを伝えていきたい」と史料をまとめる立場で苦心の一端を披露していました。

較的豊富な江戸末期以降はできるだけ詳細に記述することになりました。伝説、民話などを多く取り入れ、写真もふんだんに使うなど全体に読みやすくし、上庄の

上庄のあゆみ

郷土史「上庄のあゆみ」の編集はほぼ終わり、早ければ今月中にも印刷にかかれる見通しです。A5判およそ300頁の大作になる予定です。

発端は昭和46年、県営上庄圃場整備事業が始まる直

前、公民館運営審議会で郷土史編さんの話が持ち上がりました。現状のままでは古文書や民話、民謡などの貴重な資料が失われていくばかり。これらの資料をまとめ、若い世代へ引き継ごうというのが理由でした。

編集委員は15人。井尾公民館長が委員長となり、各部落ごとに古老1人を編集協力者とし、部落に伝わる伝説や民謡などを口授してもらいました。

編集方針では、原始時代から江戸時代までを「まえがき」にまとめ、資料の比

人情、風俗を豊かに表現

史実の確認に注意を払う

大野市史

全8巻めざして作業始まる

資料提供に協力を

大野市史編さん事業は、4月1日から有終南小学校に市史編さん室を設けて本



編さん作業に取り組む俵局長

格的な編さん作業をスタートさせました。この事業は、昭和49年7月市制20周年を迎えたのを記念して取り組まれたもので、市史編さん室事務局長に俵勇氏(前上庄中学校長)が起用されました。

今年度の予算は、482万8,000円でカメ

ラ、ミニコピーマイクロオートリードプリンターなど主に資料の複写に必要な機器を整備する予定です。

編さん委員は昨年8月に吉田森委員長以下7人の郷土史家が委嘱され、去る4月1日の第1回市史編さん委員会に引き続き、5月13日に第2回目を開き編さん方法などを検討した結果 ① 通史編は総説と各説の2巻とする ② 資料編は史料総説編、金石文編、社寺文書編、諸家文書編、藩政資料編、図版写真集の6巻にまとめることになりました。

また、仕事の分担では編さん委員が資料の収集・調査・研究を、編さん室が史料の調査・収集・記録及び保管と市史の発行計画の樹立をすることにしています。

市史監修者には広島大学の重松教授(前福井大教授)を充て、編さん室では「一、二年の間には、せめて社寺文書編の1巻だけでもぜひ出版したい」と意気込んでいます。

市史編さんは何百年に1回という大事業だけに、編さん室では「最も精確を期し、悔いのないものを作っていくたい。

そのためにも町方、村方に眠っている古文書などの貴重な資料を出来るだけ多く見せてほしい」と市民の協力を呼びかけています。

スマイル

「時の記念日」

チッコク、チッコク、チッコク
—大野時間

ゴミのない美しいまちに

あなたの家庭からは1日にどれくらいのゴミが出ますか。昨年度の市の統計では1世帯当たり1日平均 3,938g になっています。ゴミは生活様式が高度になればなるほど多くなり、質的にも多様化し、家庭でも社会でもその処理が問題になっています。5日から11日までは環境週間です。この機会に「ゴミ」についてみんなで考えてみましょう。

不燃物、市内全域が週一回に

「分別収集」は7月から

市街地のゴミ収集は、7月5日から可燃物（燃えるもの）と不燃物（燃えないもの）を分けて集める「分別収集」になります。

この方法を取り入れることによって収集の能率が上がり、市内全域への収集回数を増やすことが出来ます。また、処理作業がやりやすくなるばかりでなく、作業員の安全や

収集日は週1回で、市街地は冬期間に行っていた曜日の翌日（例えば月曜地区は火曜日に、土曜地区は月曜日）になります。

また、村部の不燃物収集はこれまで月2回でしたが、週1回になります。

下庄地区は月曜日（現在のゴミ収集地域は除く）、乾側地区は火曜日、上庄地区は水曜日、小山地区は木曜日、富田・五箇地区は金曜日、阪谷地区は土曜日です



不燃物、可燃物を混ぜないように



四種類のゴミ袋を置き処理している坪内好子さん

類を置き、種類別に処理をしているのでゴミをステーションへ出すのは1カ月に1回程度というアイデアママさんです。残菜は畑に直径10cm程度の穴を掘ってそこにため、たい肥に生かします。また、紙クズなどは灯油カンに穴をあけて燃やし、その灰は土に返えています。

ですからゴミ収集車に出すのは、家庭で処理しにくいポリ容器や木クズなどの

可燃物とビン、カン、鉄類の不燃物だけです。

坪内さんは「家庭の中から一番多く出るゴミは残菜で、これを有効に生かせば得がたい有機肥料になりますし、ゴミの減量運動にも協力出来て一石二鳥です」と語っていました。

焼却炉の保護にも役立ち、多くのメリットがあります。

可燃物は市であっせんしているビニール袋につめて、収集日の午前7時30分までにステーションへ出して下さい。収集日は従前どおりで週2回行います。

ビン類、カン類、鉄くず類等の不燃物は、ダンボールやビニール袋などで運びやすく、しかも危険がないように包装して、収集日の午前7時30分までにステーションへ出して下さい。その際冷蔵庫、洗たく機、テレビ、自転車などの粗大ゴミは処理手数料が必要ですから、氏名、住所を記入願います。

アイデアママさん

残菜で有機肥料づくり

ゴミ搬出は月1回

ゴミの処理をいろいろと工夫し、残菜などの土に返せる物は有機肥料に積極的に生かしている人がいます。

坪内好子さん（36歳、月美町）で家庭では残菜や魚骨、卵のからなどを入れる袋、紙クズ袋、ポリ容器や木クズなどの袋、ビン、カン類など不燃物の袋の4種

処理にアイディア生がそろう

ヤング高原会員

円山公園守って3年

ゴミの持ち帰り運動を強調



毎週1回清掃奉仕を続けているヤング高原会員

日曜日や祝日明けの円山公園には、弁当がらやジュースの空きカンなどがあたり一面に散らばり、その不潔さに驚かされます。

これを足掛け3年間毎週1回清掃作業を続けているのが阪谷地区の青年で組織している「ヤング高原」の人たちです。

青年たちは午前6時に公園に集まり、ゴミを可燃物と不燃物に分け、手際よくビニール袋にこん包

していきます。

若葉のかぐわしい朝風をよそに、作業する手元からはゴミ特有の悪臭が鼻を突き女子会員の1人は「朝の食欲がなくなる」と苦笑していました。

会長の三足義光さんは「地元にある公園を少しでもきれいにするのは青年の務めと思って清掃活動を続けています。公園を利用する大半の人は心ある人々で、ゴミかごの中かその付近にかためて帰られます。しかし、その後に野犬があさったり、風でゴミが四方に散ったりして、翌日には手のつけられないような状態になってしまいます。このような自然公園を守る最もよい方法は、利用者が自分でゴミを持ち帰る、ことで、これからはぜひ実行してほしいですね」と、ゴミの持ち帰り運動、を強調していました。

空地に「家庭菜園」を

肥料は自家製たい肥で

庭の片すみに「家庭菜園」をつくり、家族で育てた時季折り折りの野菜料理で食卓を囲むのも楽しいものです。あなたもぜひ試みて下さい

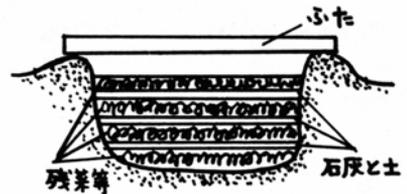
その際なるべく化学肥料に頼らず、台所から出る残菜などを生かした有機質の肥料で栽培したいものです。そこで、だれにでも出来る易しい

たい肥作りの方法を紹介しましょう。

〈易しいたい肥作り〉

1. 一辺1尺、深さ50~60分の四角形の穴を掘り、ふたを作る。
2. その中に残菜等を毎日入れ、必ずふたをする。
3. 残菜等が厚さ10センチぐらいになったら石灰と土を混ぜ、その上に厚さ1センチぐらいかける。
4. 残菜、石灰と土、残菜、石灰と土、の積み重ねを繰り返す。

5. 穴がいっぱいになったら、上部と下部が反対になるように切り替えし、通気孔を二、三カ所作しておく。
6. 2~3週間後にまた切り替えます。このころには発酵熱が発生する。
7. その後2~3週間で完熟たい肥になる



37

秋葉山常夜燈

秋葉山大権現と呼ばれて庶民から信仰されているのは、静岡県周智郡にある秋葉山にまつられている「三尺坊」のことです。三尺坊は修験者で、秋葉山を開山し、種々の秘法を行って火防の利益を示したといわれ、「火防鎮護」の神として



知られています。

度々の大火に苦しんできた大野の町人が、七間通りに「秋葉山常夜燈」を建立して「火防祈とうを行ったのは、明治21年の大火後と伝えられています。

祭日には仮殿を作り、町を挙げて盛大な火防祭が行われました。

常夜燈は最初三番辻に、次に二番辻へ移され、現在は春日二丁目の稲山工場横に建立されています。青銅製の実に立派な灯ろうで、文化財としての価値十分です。

市長中国
親善訪問



上海市の工人新村幼稚園で大観迎を受ける寺島市長

国づくりの意欲に感心

寺島市長は中日友好協会(愛承志会長)の招きで、日本海沿岸自治体首長第一次友好訪中団(団長板垣清一郎山形県知事)の一員として4月19日に訪中、2週間にわたる日中友好親善の全日程を終えて、5月2日に帰国しました。

帰国報告の記者会見で訪中の印象を次のように語りました。

「招待されたのを機に、日中友好促進のため訪中し、北京、天津、西安、上海の4市とその周辺の農村の様子などを見てきました。中国はいま、新国家建設の意欲に燃え、体制の違いはあるが、国民はみんな明るく勤働で、しかも大変友好的です。国家も古い物を大切に、文化財として保存に力を入れているのに感心しました。北京の大地下壕や大港油田のスケールの大きさも印象的でした」



◆市税の前納報奨金制度の利用を

固定資産税、市民税、国民健康保険税には、年額を一括して納めると得な前納報奨金制度があります。

一括前納めしますと、税額の100分の1に納期前の月数を乗じた額が交付されますので、ご利用下さい。

◆市民マラソン大会に参加しよう

市民マラソン大会が6月13日(日)午前9時から市民グラウンド(開成中旧グラウンド)から国道157号線で、2%、4%、6%、12%の各コースを設け行

われます。

男、女とも小学5、6年生、中学生、高校生、一般人を対象として、自分の体力に合ったコースを選んで参加することになります。小学、中学生の場合は親の同意が必要です。参加希望者は6月10日(木)までに市体育課(6-1111内線406)へ申し込んで下さい。

◆あなたの声を県政広聴員に

昭和51年度の県政広聴員に次の方々が委嘱されました。広聴員は県政に対する県民の意見や要望をまとめて、県行政当局に伝達する役割りをします。

あなたの意見、要望を近くの広聴員にお寄せ下さい。 敬称略

齊藤正義(春日2丁目)、中島美代子(有明町)、山田行雄(元町)、山岸利

今月の納税
市、県民税 国民年金保険料
第1期分
30日までに納めて下さい。

志子(泉町)、齊藤甚右衛門(大矢戸)北山由美子(牛ヶ原)、吉田隆太郎(欽掛)、伊東敬一郎(猪島)、朝国喬(高島)、佐々木和子(木落)、田中豊(花房)、前田清(西勝原)

◆農業委員選挙は6月24日

任期満了に伴う大野市農業委員会委員一般選挙は、次の日程で行われます。

6月4日(金)午後1時30分

立候補予定者説明会(市役所談話室)

14・15日午前8時30分~午後5時

立候補届出受付(市選管事務局)

24日(木)午前7時~午後6時

投票(市内17投票所)

◆ご意見、苦情を環境モニターへ

昭和51年度の県の環境モニターは次の方々です。環境問題(公害など)についての相談や市民の意見、要望を県行政に反映させる役割りをします。

ご意見、苦情等がありましたらお寄せ下さい。(敬称略)

広瀬竜輔(元町)、伊藤武治(元町) 幅口紀子(有明町)

◆献血に協力を

8日(火)大野商工会議所前

18日(金)北陸電力大野電力所前

時間はいずれも午前10時~午後3時

前号の本欄に書いた自然の開発と破壊の宿命的な問題について、それをどう解決しなければならぬか、に關していま少し触れてみたい。それは現代文明を背負って立つわれわれの重要な課題であり、また正しい文化史観の確立が強く要請されるゆえんでもあるからである。▼例えばコンクリートやアスファルトで敷きつめられた道路の一角の切れ目の中に、一茎のスミレやタンポポの花を見つめる鋭敏な美的感覚や、騒音の中でも一瞬に聞く鳥の声に耳を澄ます神経がわたしたちにはあるはずだ。むしろそれは本能的な人間の本性でもある。▼世の中が忙しくなればなるほど、人間の郷愁は強い反応を示す。先ほど開かれた探鳥会にも、年々参加数は増えつつあることなど喜ぶべきことである。鳥の姿は見極めずとも、そのさえずりの高低や、長短は一ときたりとも一様ではない。それが生きている証拠であることを知らず知らずのうちに感じとるならば、その人の心の豊かさはまことにうらやましい限りである。学習に追われる児童生徒や、仕事に忙殺される大人たちも、それに押し流されるのでは真の人間的生活とはいえない。▼季節の推移は一ときたりとも停滞していない。「年年歳歳花相似たり歳歳年年人同じからず」と述べた詩人にも、必ずや年々歳々花の同じからずを看破した眼はあったであろう。急テンポに移り変わる自然の景観の中で、変わるものと変わらないもの、それは一体何なのか、変わらざる「いのち」の存在を問いたいものである。(M生)



前号の本欄に書いた自然の開発と破壊の宿命的な問題について、それをどう解決しなければならぬか、に關していま少し触れてみたい。それは現代文明を背負って立つわれわれの重要な課題であり、また正しい文化史観の確立が強く要請されるゆえんでもあるからである。▼例えばコンクリートやアスファルトで敷きつめられた道路の一角の切れ目の中に、一茎のスミレやタンポポの花を見つめる鋭敏な美的感覚や、騒音の中でも一瞬に聞く鳥の声に耳を澄ます神経がわたしたちにはあるはずだ。むしろそれは本能的な人間の本性でもある。▼世の中が忙しくなればなるほど、人間の郷愁は強い反応を示す。先ほど開かれた探鳥会にも、年々参加数は増えつつあることなど喜ぶべきことである。鳥の姿は見極めずとも、そのさえずりの高低や、長短は一ときたりとも一様ではない。それが生きている証拠であることを知らず知らずのうちに感じとるならば、その人の心の豊かさはまことにうらやましい限りである。学習に追われる児童生徒や、仕事に忙殺される大人たちも、それに押し流されるのでは真の人間的生活とはいえない。▼季節の推移は一ときたりとも停滞していない。「年年歳歳花相似たり歳歳年年人同じからず」と述べた詩人にも、必ずや年々歳々花の同じからずを看破した眼はあったであろう。急テンポに移り変わる自然の景観の中で、変わるものと変わらないもの、それは一体何なのか、変わらざる「いのち」の存在を問いたいものである。(M生)